

# 月経観と出産に対するイメージの関連

○田仲由佳・山本紗恵 (清泉女学院大学人間学部)

キーワード：月経観, 妊娠, 出産, 女性, 生殖性

## 目的

身体的特質という点からみた場合、女性の身体は一生の間に、月経を迎える思春期、月経のある性成熟期、月経を終える更年期、月経を終えてからの老年期の4つの段階を経験する。その二段階目、月経に象徴される性的成熟に関しては、しばしば将来の妊娠・出産に備えるための重要な機能であるという教育がなされるが、当事者である女性は、月経に対してどのような認識をもち、それらと将来の生殖性をどのように結び付けているのだろうか。以上の問いをもとに、本研究では、性成熟期にあり出産を経験する前の女性の、妊娠・出産あるいは子どもをもつことに対する意識をとらえるとともに、女性特有の身体機能である月経に対する認識（以下、月経観）と出産イメージとの関連について検討することを目的とする。

## 方法

**分析対象者：**甲信越地方にある4年制女子大学に通う18歳から21歳の女性55名（平均年齢19.06歳， $SD=0.83$ ）。

**調査時期：**2017年11月～12月

**調査手続き：**大学の講義時間の一部を利用して、質問紙法による一斉調査を実施した。実施者が調査概要および倫理的配慮について口頭および文面で説明を行い、対象者の同意が得られた場合には質問紙に回答してもらうよう依頼した。倫理的配慮として、調査への協力は任意でありいつでも中断できること、調査によって得られたデータは統計的に処理され、個人が特定される形で研究成果が公表されることはないこと等を説明した。記入済の質問紙は、対象者自身に回答内容が見えない状態に折り込んで提出してもらった。

**調査項目：**子どもをもつことに対する意識（4項目）：将来子どもをもつことに対する自分自身の希望を、子どもが「とても欲しい」から「まったく欲しくない」の7件法で尋ねた。その後、子どもを持ちたいと回答した者に対して、希望する子どもの数、第一子の出産年齢とともに、子どもを持ちたいと思う理由について選択肢を設け、最も当てはまるもの1つを回答してもらった。月経観：諏訪部・香川（2017）、野田（2001）より、自然な肯定的イメージ9項目、月経は衰弱させるもの3項目、いずれも5件法。出産に対するイメージ：谷津他（2016）を参考に10項目を作成、5件法。

## 結果と考察

### (1) 子どもをもつことに対する意識

将来子どもをもつことを希望するかどうかについて7件法で尋ねたところ、「欲しい」と答えた者が最も多く（42.6%）、「とても欲しい」「欲しい」「どちらかといえば欲しい」を合わせると、75.9%の者が将来自分の子どもをもつことを希望

するという結果であった。子どもを持ちたいと考えている者の中で、希望する子どもの人数について尋ねたところ、「2人」と回答した者が最も多く（65.9%）、その次に多かったのは、「3人」（20.4%）であった。第一子を設けたい年齢として最も多く選択されていたのは、25歳から27歳（59.1%）であり、30歳以上と回答した者はいなかった。また、子どもが欲しい理由を選択してもらったところ、「子育てをしてみたいから」（52.3%）、「子どもが好きだから」（25.0%）の順に多かった。

### (2) 月経観と妊娠・出産に対するイメージ

月経観と出産に対するイメージの回答結果を示す（Table1～Table2）。これを見ると、月経に対する自然な肯定的イメージが高いこと、また出産を「大事なもの」、「幸せや喜びをもたらすもの」ととらえる意識が高いことが示された。その一方、出産に対して「痛い」「負担」など身体面への影響も強く意識されていることがうかがえる。

Table1 月経観の平均値と標準偏差（ $n=53$ ）

	平均値	標準偏差
自然な肯定的イメージ	3.81	0.56
月経は衰弱させるもの	2.38	0.71

Table2 妊娠・出産イメージ項目の平均値と標準偏差（ $n=53$ ）

	平均	標準偏差
出産は大事にすべきである	4.53	0.72
出産は痛いものである	4.72	0.57
出産は負担なものである	4.11	0.97
出産は幸せを感じるものである	4.30	0.80
出産は負い目を感じるものである	2.47	0.99
出産は喜びをもたらすものである	4.37	0.74
出産は恥ずかしいものである	1.75	1.07
出産は乗り越えられるものである	4.15	0.67
出産は女性なら体験したいものである	3.40	1.03
出産は自由を制限されるものである	3.26	0.81

次に、月経観と出産イメージ10項目の関連について検討を行った。その結果、月経に対する自然な肯定的イメージと出産イメージ項目の中の「出産は大事にすべきである」（ $r=.50$ ）「出産は喜びをもたらすものである」（ $r=.41$ ）「出産は女性なら体験したいものである」（ $r=.48$ ）の間に中程度の有意な正の相関が見られ、月経を自然で肯定的なものとして受け止めている者ほど、出産に対して肯定的・積極的なイメージをもっていることが示唆された。一方で、月経の否定的影響（月経は衰弱させるもの）と出産イメージ項目の間に有意な相関は見られなかった。

利益相反開示；発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(TANAKA Yuka, YAMAMOTO Sae)